

ごろごろ、神戸。

平民金子

私は昨年4月、塩屋で開催された「平民金子展『ごろごろ、神戸。』もうひとつの世界」に行ってきました。駅から15分ほど住宅地を歩き、お目当ての784 JUNCTION CAFEに到着。高台にあるおしゃれで落ち着いた場所でした。展示は2階で行われていて、お部屋ごとに詩や写真、なにやら昔のおもちゃや缶チューハイなどが置いてありました。身近なはずなのに、遠く離れた全然知らない場所のような神戸がそこにはありました。1階のカフェでクッキーを買い、駅まで戻りながら、ねこやお花の写真を撮ったり、パン屋さんに寄ったり、お豆腐屋さんに声をかけてもらったり、塩屋にはゆったりとした時間が流れていて、不思議な感覚でした。

447ページに及ぶ分厚い本ですが、どのページにも神戸が描かれています。この本は、神戸市広報課のサイトで連載したものを再構成し作られたもの。公の文章だったら堅苦しいのかしら、と身構えて読むと脱力します。北野異人館！旧居留地！といったガイドブック的の神戸ではなく、子育て中のおじさんが（子ども＋犬を乗せた）ベビーカーを押して歩いた日常の神戸。住んでいる人の実感としての街の様子が綴られています。子どもと一緒に歩くことで、大人1人では気にも留めなかった「これは何？」にぶち当たる。虫との出会い、知らない音…。平民金子さんによると、神戸には子どもを連れて歩ける場所が豊富なようです。私もいろんな施設や自然があって住みやすい街だと思っていましたが、子どもを育てるときこそ、その真価が問われるんだなあ、と思いました。

最近の神戸は再開発ラッシュです。「都心・三宮再整備 KOBE VISION」というプロジェクトがあり、それに沿ってどんどん工事が進められています。三ノ宮駅の周辺だけでも、ここ数年で建物が取り壊されたり、新しく建てられたり。昔ながらの市場や商店街が少なくなっていくことに寂しさを感じます。でも、新しいかたちのそういった場所がこれから増えればいいなあ、という期待もあります。今私たちが見ている景色は今だけのもの。その時の気持ちやできごとと一緒に、街の風景も記憶や記録として残しておかなければ、と思いました。

平民金子

1975年大阪生まれ。写真家・文筆家。中国、メキシコ、北海道、沖縄、東京などを転々としたのち、2015年より神戸市在住。2017年より、神戸市広報課のホームページにて「ごろごろ、神戸」を連載。